

令和五年四月十日発行

皇學館論叢第五十六卷第一号 抜刷

紹介

皇學館大学創立百四十周年・再興六十周年記念

『伊勢神宮大嘗祭研究文献目録』

田井健治

皇學館大学創立百四十周年・再興六十周年記念

『伊勢神宮大嘗祭研究文献目録』

田井健治

皇學館論叢 第五十六卷第一号
令和五年四月十日

去る令和四年、皇學館大学は明治十五年の開学より百四十年、昭和三十七年の再興より六十年の佳節を迎えられた。本書はその記念事業の一環として刊行されたものである。

これは、「伊勢神宮研究文献目録」と「大嘗祭研究文献目録」の合冊であり、前者は平成二十四年に同大学の創立百三十周年・再興五十周年記念として刊行された『伊勢神宮研究文献目録』に収録された業績以降、平成二十三年十月から令和三年九月までの神宮関係研究文献を収載している。後者は明治元年以降、令和三年九月までに主として国内で公開された大嘗祭関係研究文献の目録を編じたものとなっている。

先ずは本書の目次を示しておく。

刊行の辞

皇學館大学学長 河野 訓

伊勢神宮研究文献目録（平成23年10月～令和3年9月）

凡例

（付）分類項目一覧

1 部 分類項目別目録

（1）著書別目録

（2）論文別目録

2 部 著者別目録

（1）著書別目録

（2）論文別目録

3 部 映像資料目録

大嘗祭研究文献目録（明治元年～令和3年9月）

凡例

大嘗祭 五十音順目録

(1) 著書別目録

(2) 論文別目録

大嘗祭 年月日順目録

(1) 著書別目録

(2) 論文別目録

大嘗祭 映像資料目録

次に各項について若干の解説を附しておく。前半にあたる「伊勢神宮研究文献目録」についてであるが、収録された論文等の件数は単行書百八十四件、論文類八百三十九件、映像資料八件の都合千三十一件に上る。著編者数は単行書百六十名、論文類四百六十七名となっている。

分類項目は大項目を二十項目設け、其の大項目毎に三～七つの中項目を作り、中項目の中に必要な項目にはさらにa～dの小項目を附すという三段階で分類される。

大項目は以下の通りとなっている。

01 総記

02 祭神

03 宮社

04 宮域

05 祭祀

06 奉幣

07 遷宮

08 典籍・史料

09 神宮史

10 思想・宗教

11 法規

12 職制（神官）

13 御師

14 経済・神領

15 地域

16 崇敬・奉賛

17 伊勢信仰・民俗

18 教化・文教

19 文学・芸能・美術

20 随想・雑記

分類項目はここに示した大項目以下、中項目、小項目まで前『伊勢神宮研究文献目録』を踏襲している。分類別項目別及び著者別に目録が作成されているので、必要に応じた使い方が出

来るようになってきている。特に分類別項目に目を通してみると、研究蓄積の多くある部門、逆に今回収録分には研究蓄積が一切見られないものも目に付く。言い換えれば近年の神宮研究の傾向を見出す事が出来る。また同様に研究の薄い部分も看破される。

伊勢の神宮は令和七年には第六十三回式年遷宮に向けた山口祭を控えている。いよいよ次回式年遷宮に関する諸祭儀が始まるうとしている。近代化以降式年遷宮のあり方は模索を続けられ、この伝統を守り続けるべく各方面からの努力が続けられている。その様の中で、本書がその研究発展の一助になるであらう。

さて大嘗祭研究文献目録であるが、歴年の蓄積を基として編纂されている。凡例によれば、

- ・『大嘗祭の研究』 所収「大嘗祭関係文献目録」
- ・『統大嘗祭の研究』 所収「大嘗祭関係研究文献目録」
- ・『皇學館大学神道研究所所報』第三十九号所収「大嘗祭関係研究文献目録（追補）」
- ・『皇學館大学神道研究所所報』第四十一号所収「大嘗祭関係研究文献目録（追補Ⅱ）」

・『皇學館大学神道研究所所報』第四十二号所収「大嘗祭関係研究文献目録（追補Ⅲ）」

・『皇學館大学神道研究所所報』第五十六号所収「大嘗祭関係研究文献目録（追補Ⅳ）」

・『皇學館大学神道研究所所報』第七十四号所収「大嘗祭関係研究文献目録（追補Ⅴ）」

・別冊歴史読本『図説天皇の即位礼と大嘗祭』所収「即位礼・大嘗祭の図書案内」

・『日本古代即位儀礼史の研究』所収「大嘗祭・新嘗祭関係文献目録―昭和二十年～平成十年―」

・『神道宗教』第二五四・二五五合併号所収「平成度大嘗祭関係研究文献目録」

・『資料集 大嘗祭論抄・全』

以上の資料を基に補充がなされている。特筆すべきは映像資料で、VHS・DVDとごった有形媒体のみならず、政府インターネットテレビ、NHKアーカイブス、YouTubeなど政府広報及び各報道機関がインターネット上に公開している映像等という無形資料についても収録されている。

皇學館大学における大嘗祭研究の位置づけを顧みるに、当時皇學館大学神道研究所長であった岡田重精氏が『大嘗祭の研究』

の結びの中で、

神道研究所の最初の研究成果としてこれを世に送ることに
なつたが、本研究所は昭和四十八年創設され、初代西山徳
所長がその基礎を固め、二代故久保田取所長によつて本格
的な研究事業に着手、多方面に及ぶ研究活動が展開された
と語り、同じく同書の緒言において、当時学長を務めていた佐
藤通次氏は、

神道を建学の基盤とする本学に於いては、この大嘗祭研究
の重要性に鑑み、神道研究所内に「大嘗祭研究会」を組織
し、学内外に亘る多数の研究者の参会を得て、広く大嘗祭
に関する研究を鋭意進めて来た

と述べ、さらに「今後もその研究はなほ累積されなければなら
ない」と願っている。その願いは引き継がれ、『続大嘗祭の研究』
では、その序において当時学長の谷省吾氏が、

すべての課題をおほふには、もとよりまだ程遠いし、本書
収録の論文にしても、理解・解釈が必ずしも統一されてゐ
るわけではない。だが、今日大嘗祭研究を推進させるため
の、かなりの貢献であると信ずる。

と記している。おなじくその跋の中で、当時神道研究所長で
あつた真弓常忠氏は

本書が、昭和委の在り方への示唆を含めて、大嘗祭理解の

資となり得れば幸ひである。

と綴られるが如く、皇學館大学では一貫して大嘗祭に関する研
究の中心的役割を担っている。

また皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年の記念学術研
究の一冊として刊行された『儀式 踐祚大嘗祭儀』の刊行の辞
において当時学長の清水潔氏は

本書は、皇學館大学神道研究所が長年に亙り取り組んでき
た『儀式 踐祚大嘗祭儀』の訓読・注釈研究の成果である。

神道研究所は、昭和四十八年に文学部附属研究機関として
創設され、同五十三年には大学附置研究所と位置付けられ
たが、当初より、研究所存立の基盤に関わる重要課題とし
て「大嘗祭の研究」を掲げてきた。その趣旨は、大嘗祭の
祭祀・儀式次第、歴史とその意義を精確に理解することが、
日本文化の特性と伝統をその核心において解明することと
なると考えたからである。

と言い表わされ、研究の遅速はあれども着実に皇學館大学の
大嘗祭研究の歩みを進めてきていることは、換言すれば皇學館大
学の大嘗祭研究の歴史は同大学の再興の歴史といつても過言で
はあるまい。特に昨今は令和の大嘗祭をきっかけとして、大嘗
祭のみならず皇室に関して多くの国民が関心を抱いている。そ
の様な中であつて、これからの皇室、祭儀を考える一翼を担う

ことを願うばかりである。

皇學館の歴史は内宮の林崎文庫に皇学研究の為に皇學館を創設したことに始まる。また同大学に神道研究所が創設されて以来、その中心に大嘗祭の研究が据えられてきた。そのような中で、この度、神宮研究及び大嘗祭研究の文献目録を合冊として発刊されたことは非常に喜ばしいことである。正に、建学の精神にも掲げられる賀陽宮邦憲王令旨に、

神宮皇學館教育ノ旨趣ハ、皇国ノ道義ヲ講ジ、皇国ノ文学ヲ修メ、之ヲ實際ニ運用セシメ、以テ倫常ヲ厚ウシ、文明ヲ補ハントスルニ在リ

と示されるものを違ふことなく継承しているものといえよう。

本書の刊行が、これからの神宮・及び大嘗祭の研究発展に寄与し、またその中心に皇學館がありつづけ、ひいてはそれが日本の精神・伝統文化の継承に貢献することを念じます。

最後に本書の刊行を慶び、皇學館大学の一層の御活躍をお祈り申し上げます。

(A四判、二九二頁、非売品、皇學館大学、

令和四年三月三十一日発行)

(たい けんじ・皇學館大学非常勤講師)